

■和辻哲郎 哲学者、倫理学者。大正期の「古寺巡礼」、戦時下の「風土」、戦後の「鎖国」と、常に日本の独自性を強調。

わつじてつろう

帝国憲法発布1889＝ 兵庫県砥堀村(姫路市)の医家の次男に生まれた。

日清戦争始・1894＝ 5歳：

子規句歌革新1898＝ 9歳：

兵庫県立姫路中学校を経て、

日露戦争終・1905＝16歳：

満鉄発足・・・1906＝17歳：上京して第一高等学校に入学すると、早くも、創作・評論活動を開始する。

韓国反日暴動1907＝18歳：

伊藤博文暗殺1909＝20歳：

東京帝国大学文科大学哲学科に入学。
ケーベル・大塚保治・岡倉天心らの影響を受ける一方、
谷崎潤一郎らとともに文学活動をし、耽美的傾向の作品を書いて、

明治天皇没・1912＝23歳：

大正政変・・・1913＝24歳：高瀬照と結婚後、卒業。
夏目漱石に紹介され(漱石山房)に出入りし始める。「ニイチェ研究」、

21ヶ条要求・1915＝26歳：

民本主義・・・1916＝27歳：

ロシア革命・1917＝28歳：

本格政党内閣1918＝29歳：

ベルサイユ条約・1919＝30歳：

大暴落・・・1920＝31歳：

原敬首相暗殺1921＝32歳：

水平社結成・1922＝33歳：

「ゼエレン・キェルケゴオル」、
「ニイチェ書簡集」訳、
「偶像再興」、
「ラムブレヒト近代歴史学」訳。*「古寺巡礼」は古寺めぐりブームのもとになった。
東洋大学教授に就任。「日本古代文化」以後、日本と東洋文化のアカデミックな研究に向かう。
谷川徹三、林達夫らとともに、{思想}の編集に参画。
法政大学教授を兼任。

護憲三派圧勝1924＝35歳：

治安維持法・1925＝36歳：

円本時代始・1926＝37歳：

金融恐慌・・・1927＝38歳：

共産党事件・1928＝39歳：

「ストリンドベルク全集」の一部を翻訳。
西田幾太郎・波多野精一らの招きで、京都帝国大学文学部で倫理学の助教授となり、京都に転居。
「日本精神史研究」「原始基督教の文化史的意義」、
「原始仏教の実践哲学」。文部省の命でドイツに留学してハイデッカーの哲学に触れ、
帰国後、西欧の個人主義を批判し、日本人間観に基づく独自の倫理思想の構築に向かう。

満州事変・・・1931＝42歳：

五一五事件・1932＝43歳：

京都帝大教授。
文学博士。

帝人疑獄事件1934＝45歳：

芥川直木賞始1935＝46歳：

日中戦争始・1937＝48歳：

健保+総動員 1938＝49歳：

第二次大戦始1939＝50歳：

「人間の学としての倫理学」以降、独自の倫理学体系形成。東京帝国大学文学部教授となり、東京に転居。
「続日本精神史研究」。*「風土」は、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパ各地域の風土的特性と、それぞれの地域文化の伝統的特質の関係について考察した著作。
「倫理学・上巻」、
「面とペルソナ」。
「孔子」、「人格と人類性」。
心筋梗塞の最初の発作が起る。この頃、{思想}の編集から退く。

日米開戦・・・1941＝52歳：

・・・1942＝53歳：

創価学会検挙1943＝54歳：

年金+総武装 1944＝55歳：

敗戦・・・1945＝56歳：

新憲法公布・1946＝57歳：

「倫理学・中巻」、
連歌師の心敬について進講。「尊皇思想とその伝統」、
「日本の臣道・アメリカの国民性」、
<敗戦>後、天皇制を含めて日本文化の独自性を過度に評価する側面が批判され、
佐々木惣一と論争。「ホメーロス批判」、

極東裁判判決・1948＝59歳：

三大事件・・・1949＝60歳：

朝鮮戦争始・1950＝61歳：

独立回復・・・1951＝62歳：

メーデー事件・1952＝63歳：

「ボリス的人間の倫理学」「ケーベル先生」「国民統合の象徴」、
「倫理学・下巻」。東京帝国大学を定年退官し、日本学士院会員となる。
「イタリア古寺巡礼」「近代歴史哲学の先駆者」、*日本倫理学会を創立して、会長。「鎖国」(読売文学賞)、
「埋もれた日本」「私の信条」、
「日本倫理思想史」(毎日出版文化賞)。読売文学賞金を日本倫理学会に寄附。

55年体制始・1955＝66歳：

国連加盟・・・1956＝67歳：

「桂離宮」、文化勲章を受章した。
「自叙伝の試み」を連載し始める。

安保闘争・・・1960＝71歳：

心筋梗塞のため_没した。